

東日本旅客鉄道株式会社

代表取締役社長 深澤 祐二殿

J R 東日本輸送サービス労働組合

中央執行委員長 佐々木 宏充

## 北陸新幹線電力線路故障再発防止に関する申し入れ

2020年4月20日11時42分頃、北陸新幹線高崎・長野間(新箕郷SS～新坂城SS間)にて電車線路断線に伴う事故停電が発生しました。ちょう架線の断線によってトロリ線は大きく波打ち、断線の衝撃によって碍子が新幹線高架橋下の公道に散乱するなど沿線住民を巻き込む二次被害の恐れもあった非常に重大な事故であったといえます。

電車線路故障に伴う輸送障害については、2015年4月29日東北新幹線郡山駅構内での架線断線、2017年12月16日京浜東北線川崎・鶴見間での架線断線、2019年3月16日中央線八王子駅構内での架線断線など同種事象が繰り返えされており安全輸送の根底が揺らいでいます。これは、工事施工不良が起因の事象や経年劣化による事象、取り扱い誤りなど事故発生事由は多岐に渡ります。また、新幹線・在来線の部門を問わず発生していることから、電力部門として保守のあり方に関する大きな課題です。

メンテナンス体制の再構築ではJR本体は「管理のプロ」パートナー会社は「施工のプロ」として鉄道技術者の育成を進めてきました。会社より、2018年11月に「電気部門の変革2022」施策が示され、2020年5月13日をもって電気部門が「新たな新幹線体制の確立」となり、新幹線統括本部下へと組み込まれます。新幹線を専門にメンテナンスし保守・維持管理ができる体制へと現行の保守・維持管理体制から大きく変更となり、分野別運用を行い分野内のどの系統にも対応のできる総合技術者を育成することが施策の柱として掲げられています。

今回発生した事故の同種事故を根絶するために、現場の声を尊重した原因究明を基に未然防止の観点で抜本的な対策と再発防止を強く要請します。技術、技能継承の課題を克服し、安心感のある輸送サービスを提供するため、下記のとおり申し入れを行いますので、真摯な回答を要請します。

### 記

1. 2020年4月20日、北陸新幹線高崎・長野間(新箕郷SS～新坂城SS間)にて電車線路断線事故の原因及び、事故調査の進捗について時系列を示すこと。また、対策及び実施要項を具体的に示すこと。
2. 北陸新幹線(高崎・長野間)内に存在する多振動区間における、電気関係設備及び線路、高架橋等の施設関係設備の保守、維持管理上の課題を明らかにすること。また、課題に伴う

対策及び今後の方針を示すこと。

3. 2020年4月20日、北陸新幹線高崎・長野間(新箕郷SS～新坂城SS間)での事故発生箇所と類似する構造、施工方法の箇所について、張り替えによる修繕または補強等を2020年度末までに実施し同種事故発生防止に努めること。なお、本件に関する修繕等の計画については保守間合いを臨時で策定するなど安全作業確保の観点を第一に、2020年9月末までに策定すること。
4. 新幹線部門、在来線部門での2011年4月から2020年4月までの電車線路故障発生件数及び具体的対策、内訳を支社別で示すこと。
5. 電気部門の「新たな新幹線体制の確立」に伴い、在来線部門と新幹線部門での全エリアの技術センター、拠点メンテナンスセンター、メンテナンスセンターの要員体制を示し、異常時対応等の訓練状況を示すこと。また、パートナー会社からの支援体制について示すこと。

以 上